
そして人はいなくなっちゃいました（第十四話）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして人はいなくなっちゃいました（第十四話）

【Nコード】

N1154S

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

大阪（世界）から次々と人々が消えるという事件が発生。原因を突き止めようと、試行錯誤するおり、娘の沙羅のやっていたゲームと関連があるらしき事がわかった。ゲームの製造メーカーである京都を目指すも、大阪を出る事が出来ず、更に娘の行方も同時にわからなくなってしまう。途方に暮れた私の前で、消えた筈の娘がナイフを突き付けてきた。

（前書き）

私が勝手に始めた『リレー小説』も早くも十四話目。
皆様、最後までよろしく願います。

ナイフを突き付けた沙羅を凝視していると、その姿がグニャリと歪んで見えた瞬間、沙羅の姿がスウッと消えていった。

「沙羅！　沙羅どうした！」

消えゆく娘を抱きしめようとした途端、辺りが突然暗くなったと思うと、激しい閃光と共に視界が広がった。

私は天王山トンネルの入口で、バイクにまたがったまま立ちすくんでいたのだった。

『クソッ！　ゲームごときで人が消えるだと！　しかも大阪から出られないのか……』

暫く白昼夢を見ていた為か、頭の回転があがる。

『大阪から出られない……。人が消えているのはゲームが原因……。という事は、ゲームにこの事象の関係があるとみて間違いない。ならば！』

私はアクセルを回すと、市街地へとバイクを走らせた。

市街地に入ると玩具店や古本屋を探す。店を見つけると、店内に入り沙羅が見せたポータブルゲーム機とアダプターをカウンター内から取り出し、ソフトの管理棚を漁る。

『あつた！　これだ！』

私はソフトをゲーム機にセットすると、ゲームをスタートした。
『待ってるよ、みんな！　これでも昔はゲームにハマったものなんだ！』

街を作成するシュミレーションゲームは、治安維持と交通の快適性を高め、主要店を各所に配置、警察や消防署・病院なども、近過ぎず遠過ぎない場所に配置する事で住民の快適性を向上させる事が可能だ。

暫くゲームに集中し、ある程度街が発展したところでゲームの電源をそのままにして、店外へと飛び出した。

『クソッ！ 無理か……！ なら、これならどうだ！』
再び店内に入ると、ゲームのリセットを行う。

【設定自体をそのまま保存し、街作りを最初からやり直しますか？
もし、最初からやり直してしまうと、住民が消えてしまいますが、
よろしいですか？】

モニターの表示を確認してから、【YES】の選択肢を選ぶと店
外へともう一度飛び出した。

『クソッ！ やっぱ駄目か！』

目の前に広がる光景は、人の消えた何も変わらない日常だった。
愕然と膝を付き、空を見上げるともう夕刻になり、暗くなりつつす
らと月が見えはじめていた。

『どうすればいいんだ……。』

くじけそうな自分自身を奮い立たせ、とにかく何か行動を起こさ
ないと、とバイクの方へと向かおうとした時だった。

『……………！！』

目の前に広がる光景に言葉を失った。その途端、私は走り出して
いた。

「おい！ 今まで何処にいたんだ！」

目の前にいる男に話し掛けた。しかし男は、私の方を見ているに
もかわらず、何も言わない。

「なあ！ おいお前！ ……！！」

男に掴み掛かろうとして、更に絶句した。その男はガラスの中に
いたのだった。男だけではない、他の人間達もガラスに映った世界
の中で、何事も無かったかのように生活しているのだった。

「俺も！ 俺も、そこへ！」

激しくガラスに体当たりすると、無情にもガラスは砕け散り、真
っ暗な店内が現れただけだった。

「くそおお！ どうなつてやがんだよ！」

大声で叫ぶと、店内からゲーム機を取ってくるとポケットにねじ
込み、バイクにまたがると、あてもなくガラスに写る人々を眺めな

がら、次の行動を考え続けた。

『大阪から出られないなら、境目の薄い場所に行けば……』

ガソリンスタンドで、バイクの給油を行うと、人々を眺めていた
気持ちとは裏腹に、人気の無い山へとバイクを走らせた。

『箕面から能勢を抜ければ……。あそこは、山だから県境がわかり
にくい筈だ。沙羅・美未恵待つてろよ！ 今、行くからな！』

私は、アクセルを勢いよく回すと、バイクを走らせ続けた。

（後書き）

次の著者様は『千嶋桂華様』です。

よろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1154s/>

そして人はいなくなっちゃいました（第十四話）

2011年6月17日09時06分発行